

### 3 事業報告書

## 事業報告書 (令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

#### (1) 令和3年度 事業総括

##### ア 引受(加入)関係

##### (ア) 引受の概要

##### a 引受総括

令和3年度の農業保険事業の計画として、農業共済事業では、総共済金額1兆1,695億円、また委託事業である農業経営収入保険事業では、2,600件の契約目標を掲げ、事業推進にあたった。

新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延も2年が経過し、終息のめどが見えない中で、推進には厳しい環境が続いているが、全役職員一丸となつての取り組みの結果、農業共済事業では、総共済金額1兆1,921億円、達成率102%、農業経営収入保険事業では、2,812件、達成率108%となった。

農業共済事業では、水稻共済の令和3年産で離農等での減少はあったが、収入保険加入者を含めると戸数加入率72.3%と国が示す7割以上の加入率は維持できた。また、4年産から一筆方式が廃止になることに伴い、令和3年10月から早期に取り組むこととして、臨時総代会での承認をいただき加入方式の変更を行っている。家畜共済の死亡廃用共済は、育成・肥育牛と豚を中心に新規推進を行い、計画を達成した。なかでも種豚と肉豚は、養豚チーム(生産獣医療センター)と連携した事故除外方式の加入推進を行い、延べ15戸の新規引受を獲得した。疾病傷害共済は、育成・肥育牛を中心に新規農家の推進を行った。共済金額についても補償の拡充や危険段階への反映などを基に推進し、計画を上回る実績となった。園芸施設共済は、令和2年9月の改正制度施行で補償の充実が図られたことや新たな附帯施設の追加等により実績増となった。戸数加入率は、国が示す80%以上は維持しているが、県内では、50%以下の市町村もあり、全体の底上げが課題である。果樹共済、畑作物共済加入者には引き続き収入保険への移行を積極的に進めた結果、延べ9戸が移行した。任意共済では、農機具共済が、1,024億円の補償額となり計画を達成した。しかし、建物共済では、前年度に続き計画未達成となった。将来へ向けた対策の協議を進めつつ、令和4年度は建物共済計画達成元年の年と位置付け、必達をめざす。

事業開始4年目を迎えた農業経営収入保険事業は、コロナ禍にあつて収入保険の必要性が高まり、行政等関係団体の協力のもと、全センターで計画を達成した。国の示す全国10万経営体の目標を達成できたのは本県を含め12県、達成率では全国2位となった。

## b 農業共済事業

### (a) 農作物共済

#### 【水稻】

引受面積は9,950haで、前年産から1,183ha減少した。計画対比で96%、前年対比89%となった。これは、新たに776戸が収入保険へ移行したことと、作付面積の減少による。収入保険加入の水稻面積2,834haと合わせると12,784haとなる。また、共済金額は67億8,958万円、計画対比98%、前年対比94%となった。

#### 【麦】

引受面積は94haで、前年産から3ha増加した。計画対比103%、前年対比103%となった。これは、継続加入者の作付面積の増加による。また、共済金額は1,986万円、計画対比90%、前年対比102%となった。

### (b) 家畜共済

#### 【死亡廃用共済】

引受頭数は計画対比103%、共済金額は計画対比107%とともに計画達成となった。

頭数については乳用牛、繁殖牛の離農・廃業が進む中、育成・肥育牛を中心に新規推進を行い、計画を達成した。

また養豚チーム（生産獣医療センター）と連携した種豚及び肉豚の事故除外方式の加入推進を行い、種豚で10戸、肉豚で5戸の新規引受を獲得するなど、大きな成果をあげることとなった。

共済金額については、子牛等を中心に好調な市場価格を背景に補償の上乗せができ、計画を上回る実績となった。

#### 【疾病傷害共済】

引受頭数は計画対比104%、共済金額は計画対比103%とともに計画達成となった。

育成・肥育牛を中心に新規農家の推進を実施し、共済金額についても補償の拡充や危険段階への反映などを基に推進し、計画を上回る実績となった。

### (c) 果樹共済

#### 【うんしゅうみかん】

引受面積は25haで高齢化等による離農、新たに2戸が収入保険へ移行したことなどから、6ha減少し、計画対比81%、前年対比81%となった。また、共済金額は2,845万円、計画対比78%、前年対比78%となった。

#### 【くり】

引受面積は 96ha で高齢化等による離農、新たに 1 戸が収入保険へ移行したことなどから 10ha 減少し、計画対比 91%、前年対比 91%となった。また、共済金額は、7 戸が離農したことなどにより 3,542 万円、計画対比 79%、前年対比 79%となった。

#### 【日向夏】

引受面積は 6 ha で高齢化等による離農、新たに 1 戸が収入保険へ移行したことなどから 2 ha 減少し、計画対比 71%、前年対比 86%となった。また、共済金額は 776 万円、計画対比 77%、前年対比 79%となった。

#### 【ぶどう】

引受面積は 3 ha で 4 戸の新規加入により 71a 増加し、計画対比 126%、前年対比 126%となった。また、共済金額は 1,078 万円、計画対比 112%、前年対比 112%となった。

### (d) 畑作物共済

#### 【大豆】

引受面積は 22ha で、新規加入が 4 戸あったが、ブロックローテーションによる作付面積の減少と新たに 1 戸が収入保険へ移行したこと等により 8 ha 減少し、計画対比 74%、前年対比 74%となった。また、共済金額は 274 万円で、計画対比 71%、前年対比 71%となった。

#### 【茶】

引受面積は 3 ha で価格低迷による他作物への転換や廃作等により 2 ha 減少し、計画対比 61%、前年対比 61%となった。また、共済金額は 82 万円で、計画対比 35%、前年対比 35%となった。

#### 【スイートコーン】

引受面積は 31ha で、新規加入が 3 戸あったが、高齢化による離農や新たに 3 戸が収入保険へ移行したことにより 6 ha 減少し、計画対比 83%、前年対比 83%となった。また、共済金額は 9,968 万円で、計画対比 87%、前年対比 87%となった。

#### 【ばれいしょ】

引受面積は 24ha で、新規加入が 3 戸あったが、ブロックローテーションによる作付面積の減少と新たに 1 戸が収入保険へ移行したことにより 2 ha 減少し、計画対比 91%、前年対比 91%となった。また、共済金額は 3,579 万円で、計画対比 97%、前年対比 97%となった。

#### (e) 園芸施設共済

補償額の基礎となる資材の標準単価の引上げもあったが、新たな附帯施設の追加（暖房機・換気施設）と付保割合追加特約の積極的な推進により、共済金額 1,329 億円となり計画対比 136%、前年対比 136%（実）となった。さらに、117 戸の新規を含め 4,192 戸（実）の加入実績となり 80.3%の戸数加入率となった。また、新たに 157 戸が施設内農作物を収入保険へ移行した。

#### (f) 建物共済

共済金額は、計画金額 8,069 億円に対し 98%の 7,924 億円となり、計画未達成となった。センター別では中部 96%、南那珂 99%、児湯 96%、都城 99%、西諸 98%、北部 99%となっている。前年度実績と比べると火災共済は 146 億円の減少、総合共済は 15 億円の増加となっている。新規で 296 戸、625 棟、約 88 億円増加したものの、未継続が 1,796 戸、2,713 棟、約 282 億円となった。

火災共済から総合共済への切り替えは進んでいるが、農家数の減少や建物の解体、他保険加入等が計画未達成の主な要因である。

#### (g) 農機具共済

共済金額は、計画金額 1,006 億円に対し 102%の 1,024 億円となり、計画達成となった。センター別では中部 104%、南那珂 102%、児湯 99%、都城 102%、西諸 99%、北部 103%となっている。前年度実績と比べると、火災共済は 18 億円の減少、総合共済は 10 億円の増加となっている。

農機具の入替確認の徹底及び農家訪問等の新規推進が計画達成の要因となった。

#### (h) 保管中農産物補償共済

加入対象品目が共済事業目的に限定されており、加入品目は全て米であった。Aタイプが 1 口・100 万円増加し、Bタイプが 1 口・100 万円の減少となったが、加入戸数 12 戸、加入口数 28 口、共済金額 2,800 万円となり、計画達成となった。

戸別訪問等の実施が計画達成の要因となった。

### c 農業経営収入保険事業

全国農業共済組合連合会からの委託事業で事業開始から 4 年目。例年通り全職員による全戸訪問を徹底。新型コロナウイルス感染症の影響や自治体による保険料補助、既加入者からの宣伝効果もあり事業計画 2,600 件を大きく上回る 2,812 件の引受（加入）実績となった。

## イ 被害（事故）関係

### （ア）被害（事故）の概要

#### a 被害（事故）総括

農業共済事業の令和3年度共済金支払総額は、約56億円で、前年度の約54億円に対し104%となっている。

自然災害では、令和3年7月中旬から8月中旬にかけての長雨による影響で、早期水稲の晩生品種で穂発芽、大豆で発芽不能等が発生した。水稲の共済金支払いについては、全相殺方式の仮渡しを含め95%の年内支払いを行った。また令和4年1月22日に発生し、最大震度5強を観測した日向灘沖地震では、建物総合共済の支払いが令和4年5月18日時点で、41戸、2,450万円となっている。

家畜共済の死産事故で、肉用子牛・胎児と種豚・肉豚の多頭農家を中心に事故が多発し、事故頭数、共済金ともに大幅増加した。病傷事故でも肉用牛を中心に件数、共済金ともに増加している。

農業経営収入保険事業では、令和3年度は元年加入の1,341件に対し、つなぎ融資を99件、約3億7,000万円、保険金は、571件、約15億4,000万円の支払いとなった。長引くコロナ禍にあり加入者の約4割が保険金の支払対象となっている。令和2年加入に対しては、保険金算定中ではあるが、令和4年6月3日時点で2,413件に対し、つなぎ融資を171件、約5億4,000万円、保険金については、1,068件、約23億7,000万円の支払いとなっている。つなぎ融資のうち77件、約2億9,000万円が新型コロナウイルス感染症関連による収入減である。

農業共済事業と農業経営収入保険事業を合わせた、農業保険事業総額の支払いは、過去最高の約80億円となる見込みである。

#### b 農業共済事業

##### （a）農作物共済

###### 【水稲】

早期水稲においては、収穫期の8月に降雨が続いたことから晩生品種で、立毛での穂発芽が発生し（雨害湿潤害）、収穫終期は平年より1週間程度遅れた。一部地域でイモチ病（病害）が発生、さらに、スクミリンゴガイの発生（虫害）もあった。

普通期水稲においても、令和3年8月中旬の低日照時期が生育期となり、イモチ病等（病害）の発生が多く、さらに、7月上旬の大雨による土砂流入や埋没、冠水等が発生、近年のウンカ等による坪枯れはみられなかったが、収穫期にイノシシ、シカによる食害（獣害）が発生し、減収となった圃場があった。以上のことから、支払共済金は、6,767万円となった（前年対比60%）。

###### 【麦】

排水不良の水田圃場での根腐れ（土壌湿潤害）の発生は確認されず、順調に生育していたが、収穫期の令和3年5月中旬に平年より早く梅雨入りしたことで、倒伏や一部地域では赤カビ病が発生し、減収、品質の低下や規格外となった。以上のことから、支払共済金は、30万8,342円となった（前年対比3925%：前年支払7,854円）。

## (b) 家畜共済

### 【死産事故】

頭数は、4万7,055頭（前年対比127%）、支払共済金は、26億3,670万円（同114%）であった。頭数は大幅に増加しており（10,095頭の増）、ほとんどが肉豚の増加分（9,296頭の増）であるが、肉用子牛・胎児（386頭の増）、種豚（334頭の増）も大幅に増加した。肉豚の事故の増加は、事故除外加入からオールリスクへの切り替え、多頭農家での事故多発、大規模農場での火災事故が主な原因である。肉用子牛・胎児の事故の増加は多頭農場での事故多発（呼吸器病、消化器病など）が主な要因で、種豚は大規模農場での火災事故が主な要因である。

### 【病傷事故】

件数は、20万4,405件（前年対比102%）、支払共済金は、19億8,319万円（同104%）であった。前年と比較して件数、共済金ともにやや前年を上回った。肉用成牛で大幅に件数が増加しているが、これは生産獣医療契約の増加に伴う繁殖障害の治療の増加が一因となっている。また肉用子牛では件数は前年並みであったが、支払共済金が増加した。これは大規模農場で、呼吸器病等の診療が長引く個体が多くなり、1頭あたりの診療費が若干増加した影響も要因と考えられる。

## (c) 果樹共済

### 【うんしゅうみかん】

令和3年7月上旬並びに8月下旬において、平年より高温乾燥及び日照時間が長い日が続いたため、果実が日焼けと小玉果して減収した。また、令和3年7月中旬から8月中旬にかけての大雨の影響により、一部の園地で黒点病が発生し果実が減収した。以上のことから、支払共済金は、128万1,988円となった（前年対比32%）。

### 【くり】

令和3年5月中旬や8月中旬において、大雨により病害の発生、受粉不良、日照不足が発生し果実が減収した。また、一部の園地においてシカやイノシシによる食害が発生した。以上のことから、支払共済金は、773万1,860円となった（前年対比188%）。

### 【日向夏】

令和3年1月9日の低温によるす上がり果が発生した。また一部の園地において、シカやイノシシ、ヒヨドリによる食害が発生した。以上のことから、支払共済金は、219万2,090円となった（前年対比52%）。

### 【ぶどう】

令和3年5月中旬、8月上旬、中旬において、大雨により晚腐病が発生し減収した。また一部の園地でイタチによる食害が発生し減収した。支払共済金は、169万60円となった（前年対比125%）。

## (d) 畑作物共済

### 【大豆】

播種期以降令和3年7月中旬から8月中旬に断続的に大量の雨が降ったことにより土壌が湿潤状態となり、発芽不良やその後の生育が不良となる圃場が散見された。また、発芽期や肥大成長期の日照不足により着莢（さや）数の減少や子実の肥大不足等が起こり、さらに収穫期にサルによる食害を受けた圃場もあり、大きな減収となった。以上のことから、支払共済金は、19万7,001円となった（前年対比431%）。

### 【茶】

令和2年8月の高温・少雨により秋芽の伸びが悪かった上に、令和3年1月から2月の低温の影響で、一部圃場の新芽の焼け等がみられた。また、3月下旬の萌芽期以降、夜温が低く降水量も少なかったことから生育は緩慢であった。収量は前年同様少なかったが、県内の取引価格が前年より高値となったこともあり、共済金支払の対象となる組合員はいなかった。

### 【スイートコーン】

播種後の長雨により南那珂地域の一部圃場で発芽不良や生育不良がみられたほか、令和3年2月中旬の低温により各地で葉やけ等の霜害が発生した。また、梅雨入りが早まったことによる結実不良やその後の日照不足による肥大不足、急激な天候の回復による萎れ、さらに、収穫期にはネズミやタヌキによる食害等により大きな減収となった。以上のことから、支払共済金は、648万9,296円となった（前年対比664%）。

### 【ばれいしょ】

生育当初はおおむね順調であったが、令和3年3月下旬の低温による生育の遅れがみられた。さらに、平年より19日早く梅雨入りした事による奇形果の発生、その後の長雨による収穫遅れ、過肥大果や腐敗果の発生もあり、大きな減収となった。以上のことから、支払共済金は、292万2,356円となった（前年対比687%）。

## (e) 園芸施設共済

台風による大きな被害は無かったが、落雷被害が非常に多く発生した。この被害では、令和4年3月末時点で215戸、282棟に対し6,623万円の支払共済金となっている。病虫害については、394棟に対し1億4,169万円の支払共済金となった。特に、キュウリ黄化えそ病が141棟と内作被害の4割を占めた。以上のことから、県全体での支払共済金は、2億5,557万円となった（前年対比104.9%）。

#### (f) 建物共済

支払共済金は4億1,125万円(総合共済1億6,827万円、火災共済2億4,298万円)となり、前年より1億7,001万円の減少となった。風水害等については、前年より336棟の減少となり、3,822万円の支払減となった。台風の襲来が少なかったことが主な要因である。火災については前年より14棟の減少となり、2億336万円の支払減となった。全焼事故は12棟、1億5,535万円の支払であった。落雷については39棟増加し、4,677万円増加した。なお、令和4年1月22日に発生した日向灘沖地震については、令和4年5月18日現在、41戸、43棟、2,450万円の支払いとなっている。

#### (g) 農機具共済

事故台数は延899台で、支払共済金2億6,477万円(総合共済2億5,354万円、火災共済1,123万円)となり、前年に比べ事故台数は3台増加し、支払共済金は3,970万円増加した。

事故原因別にみると、最も多かった共済事故は接触・衝突で472台、次に異物の巻き込みが226台、次いで転覆・墜落が69台となっている。

#### (h) 保管中農産物補償共済

対象となる事故は発生しなかった。

#### c 農業経営収入保険事業

令和元年度引受分については、571件に15億4,466万円の支払い。令和2年度引受分については、6月3日現在の保険金算定進捗率95.8%で1,068件に23億6,911万円の支払いとなっている。

要因としては、自然災害や病虫害、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う価格低下が多くを占め、本人のケガや病気も支払いの対象に含まれた。